

# 令和6年産 麦作情報総括号

令和6年12月23日  
宮城県石巻農業改良普及センター  
TEL:0225-95-7612 FAX:0225-95-2999  
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-n/>



技術情報はこちらから

## 気象経過と生育概況

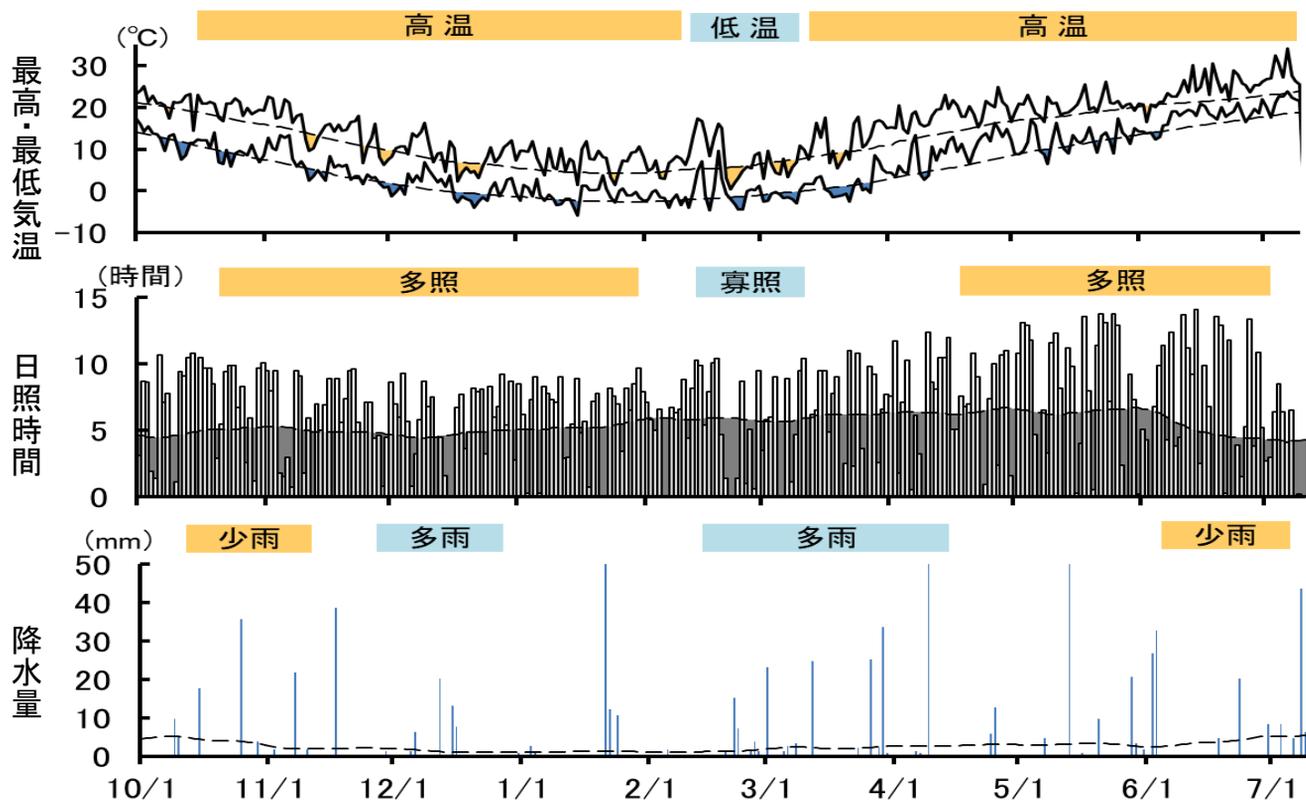


図1 麦類生育期間の気象経過(アメダス石巻)

### ○越冬前(10~12月)

10月・11月・12月の気温は平均より高く、日照時間も多くなった。

降水量は10月は平年より少なく、11月・12月は多くなった。

→ 高温多照により年内生育が確保でき、年内生育は順調であった。

■10月中旬まで ■10月下旬 ■11月上旬 ■11月中旬以降

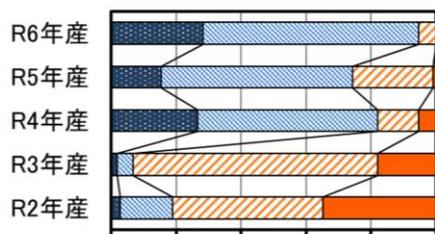


図2 時期別播種面積割合

### ○冬期間(1~2月)

1月・2月の気温は平均より高く、日照時間も多くなった。

日照時間は1月で多く、2月で平年並みになった。

→ 穂数の確保が進み、暖冬の影響で生育ステージが前進した。

R6年産は90%以上のほ場で10月中旬に播種できた！

### ○越冬後～成熟期(3~6月)

3月は気温、日照時間が平年並み、4月以降は高温多照傾向となった。

降水量は3月・4月で平年より多く、5月で平年並み、6月は第一半旬で平年より多くなった。

→ 高温多照と適度な降雨により生育良好、十分な子実数が確保された。

## 生育ステージ

- 播種日は平年より早く、管内ではほぼ10月に播種が終了しました。
- 幼穂形成期～成熟期はほぼすべてのほ場で平年より早い傾向でした。
- シラネコムギは播種日～減数分裂期まで平年並、出穂期以降は平年より早い傾向でした。

表1 生育調査ほの生育ステージ

	播種日	幼形期	減分期	出穂期	成熟期
シュンライ (給人町)	10/02 -15日	2/01 -30日	4/10 -5日	4/15 -9日	5/28 -7日
ミノリムギ (高須賀)	10/14 -8日	3/15 -5日	4/17 -4日	4/25 -6日	6/05 -5日
ミノリムギ (真野)	10/28 -2日	3/15 -5日	4/14 -6日	4/23 -7日	5/31 -9日
ホワイト ファイバー (水沼)	10/14 -8日	3/01 -15日	4/09 -4日	4/15 -8日	5/28 -6日
シラネコムギ (太田)	10/25 -2日	4/07 +3日	4/25 -1日	5/01 -6日	6/18 -6日

※赤字は平年よりも早く、黒字は平年よりも遅い又は平年並であることを示す。  
 ※平年値は過去5か年の平均。

## 生育調査ほの生育経過

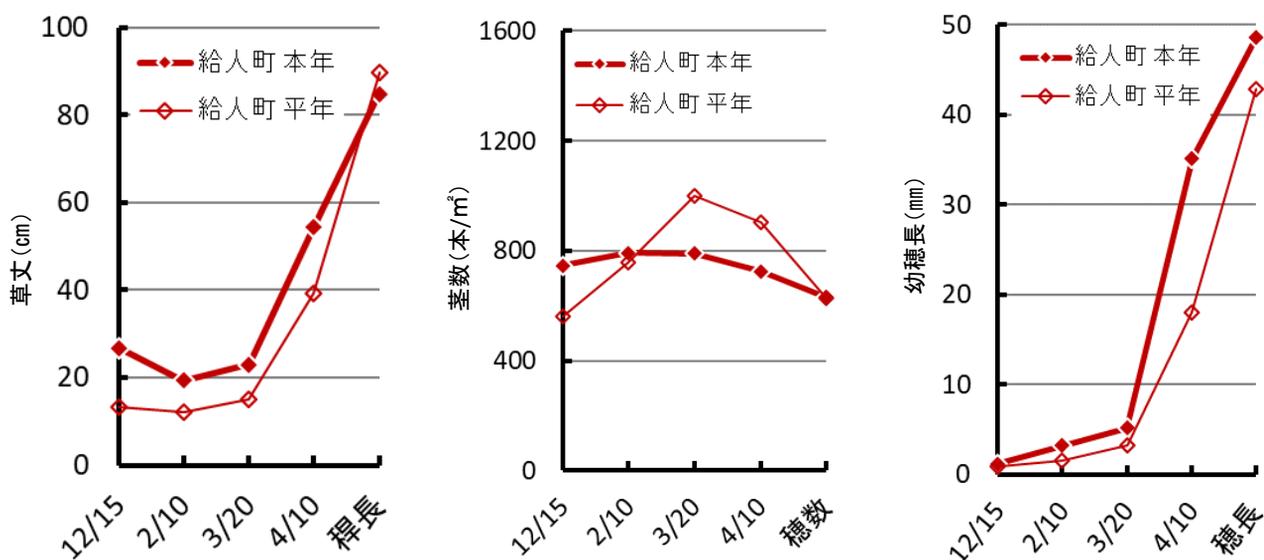


図3 草丈(左)、莖数(中)及び幼穂長(右)の推移(シュンライ)

※ 本年の播種日：10/2(平年差-15日)

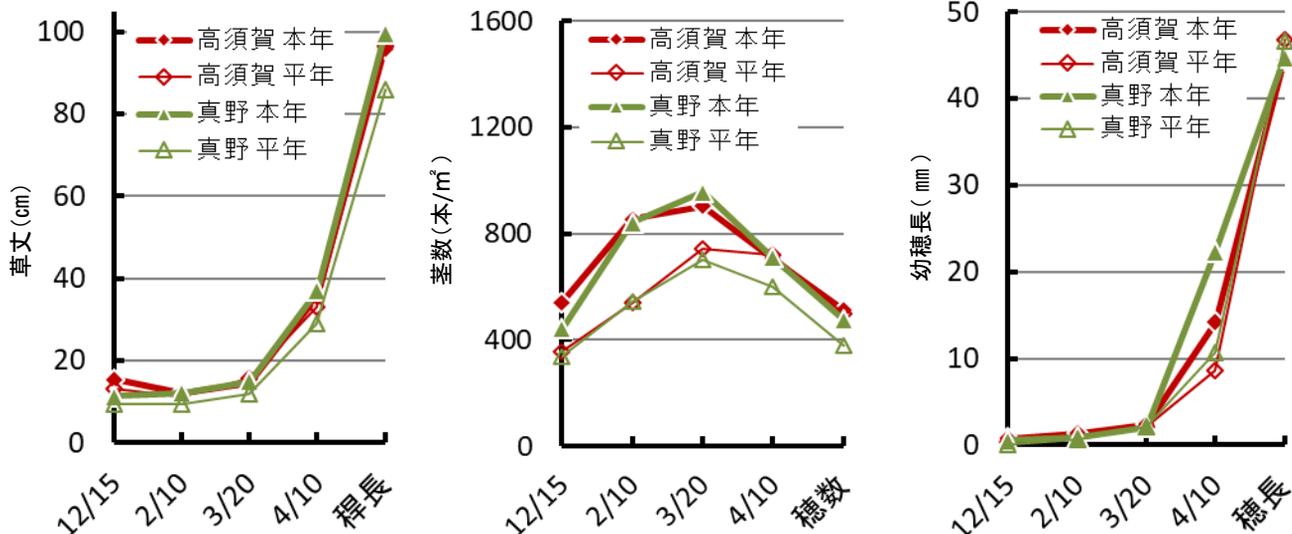


図4 草丈(左)、茎数(中)及び幼穂長(右)の推移(ミノリムギ)

※高須賀本年播種日: 10/14(平年差-8日)、真野本年播種日: 10/28(平年差-2日)

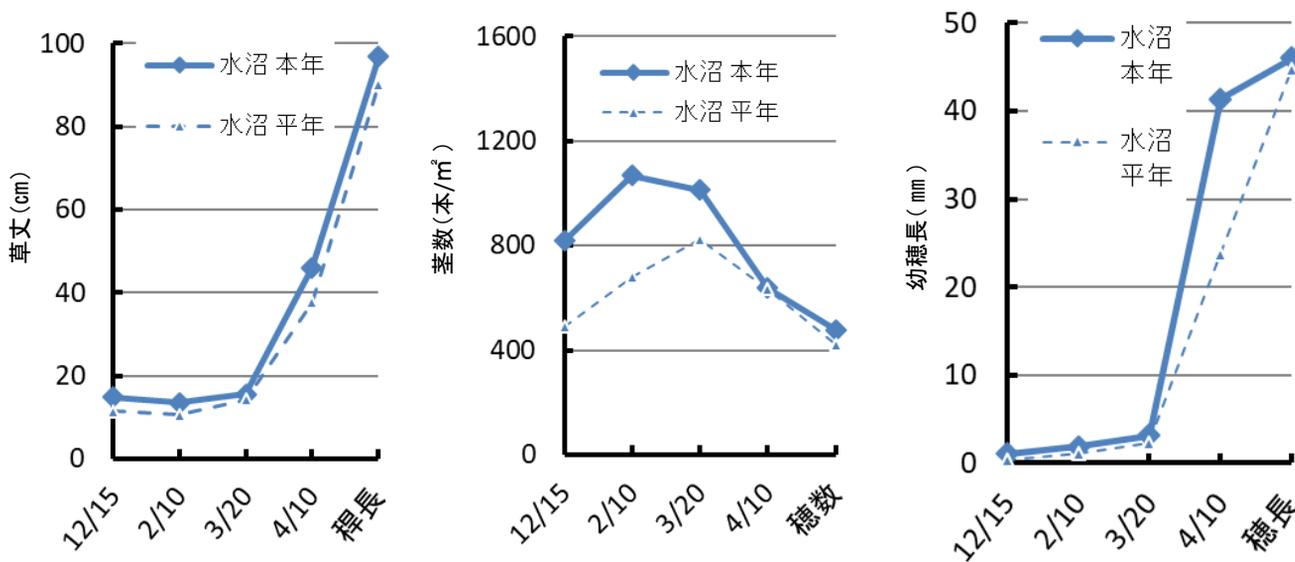


図5 草丈(左)、茎数(中)及び幼穂長(右)の推移(ホワイトファイバー)

※本年播種日: 10/14 (平年差-8日)

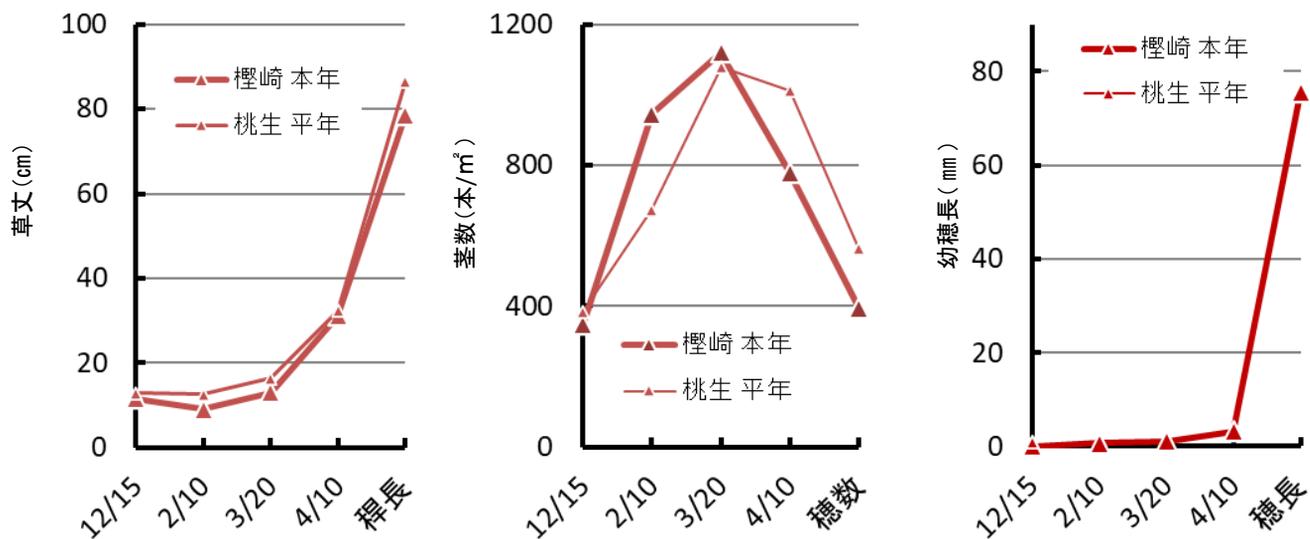


図6 草丈(左)、茎数(中)及び幼穂長(右)の推移(シラネコムギ)

※本年播種日: 10/25播種(平年差-2日)

# 収量及び品質

- ◆ 生育調査ほの収量(子実重)は、シュンライ、ミノリムギ(真野)、ホワイトファイバーで平年を上回りました(表2)。
- ◆ 収量増加の要因として、シュンライは穂長が平年より長く一穂当たり粒数が多かったこと、ミノリムギ(真野)・ホワイトファイバーは穂数の増加に伴い、m<sup>2</sup>当たりの子実粒数が増加したことが考えられます。
- ◆ 千粒重は平年並～やや少なく、容積重はおおむね平年並でした。

表2 生育調査ほの成熟期調査及び収量調査結果

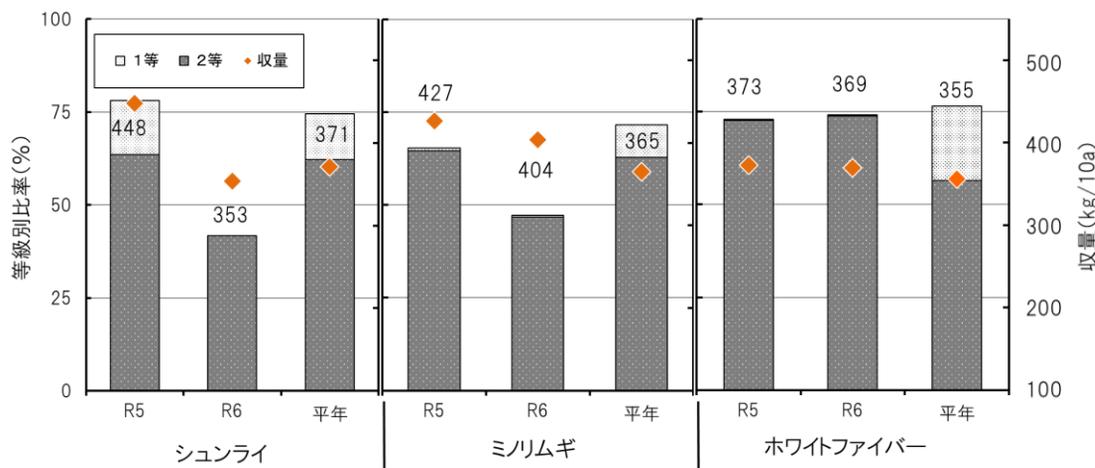
品種(調査ほ)		稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	精子実粒数		千粒重 (g/千粒)	容積重 (g/L)	子実重 (g/m <sup>2</sup> )	全重 (g/m <sup>2</sup> )	わら重 (g/m <sup>2</sup> )
					(粒/穂)	(千粒/m <sup>2</sup> )					
シュンライ (給人町)	本年	85	4.9	632	33.9	21.4	34.6	674	743	1,382	512
	前年比	93%	116%	117%	89%	105%	98%	100%	103%	99%	91%
	平年比	94%	113%	101%	106%	109%	95%	99%	105%	93%	75%
ミノリムギ (高須賀)	本年	96	4.4	515	32.4	16.7	32.9	684	549	1,036	437
	前年比	91%	97%	81%	78%	63%	93%	99%	59%	56%	58%
	平年比	99%	95%	103%	87%	89%	96%	103%	81%	73%	73%
ミノリムギ (真野)	本年	100	4.5	478	37.9	18.1	32.1	661	581	1,124	464
	前年比	117%	97%	118%	107%	127%	91%	99%	115%	111%	114%
	平年比	116%	96%	127%	110%	136%	90%	101%	126%	111%	109%
ホワイト ファイバー (水沼)	本年	97	4.6	479	39.4	18.8	33.2	655	626	1,197	475
	前年比	111%	100%	119%	98%	117%	96%	100%	112%	100%	91%
	平年比	107%	103%	114%	118%	135%	92%	97%	126%	96%	96%
シラネ コムギ (太田)	本年	79	7.5	394	27.5	10.8	39.0	802	422	933	377
	前年比	84%	84%	71%	94%	67%	98%	98%	66%	59%	53%
	平年比	91%	92%	70%	106%	75%	98%	99%	73%	68%	60%

※平年値は5か年平均

※青は前年・平年より低い(少ない)、赤は前年・平年より高い(多い)ことを示す。

## 【大麦】

- ・ 収量はミノリムギは平年を上回り、シュンライ・ホワイトファイバーは平年並となりました。
- ・ 1、2等合計の割合はホワイトファイバーで平年並、シュンライ・ミノリムギで平年・前年を下回りました。



収量	並(平年比 95%)	多(平年比 111%)	並(平年比 104%)
1・2等割合	少(平年差 -33)	少(平年差 -24)	並(平年差 -2)

図7 石巻管内の大麦検査等級別比率と収量の推移(JAいしのまき米穀課調査)

### 【小麦】

- ・収量はシラネコムギで平年を上回り、夏黄金で平年並となりました。
- ・1、2等の割合は、平年より高く、特に両品種ともに**1等比率**が高くなりました。

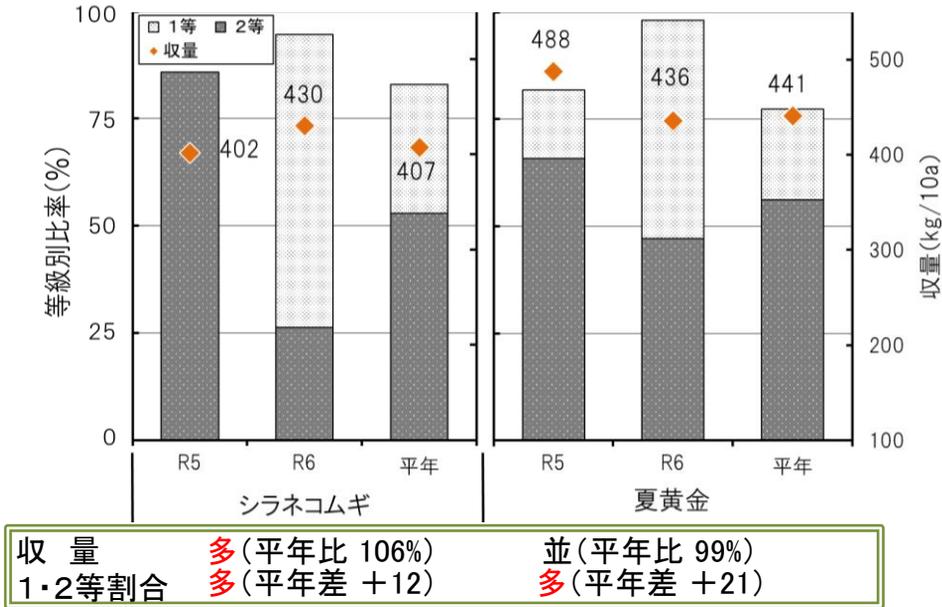


図8 石巻管内の小麦検査等級別比率と収量の推移 (JAいしのみき米穀課調査)

### 作柄概況まとめ

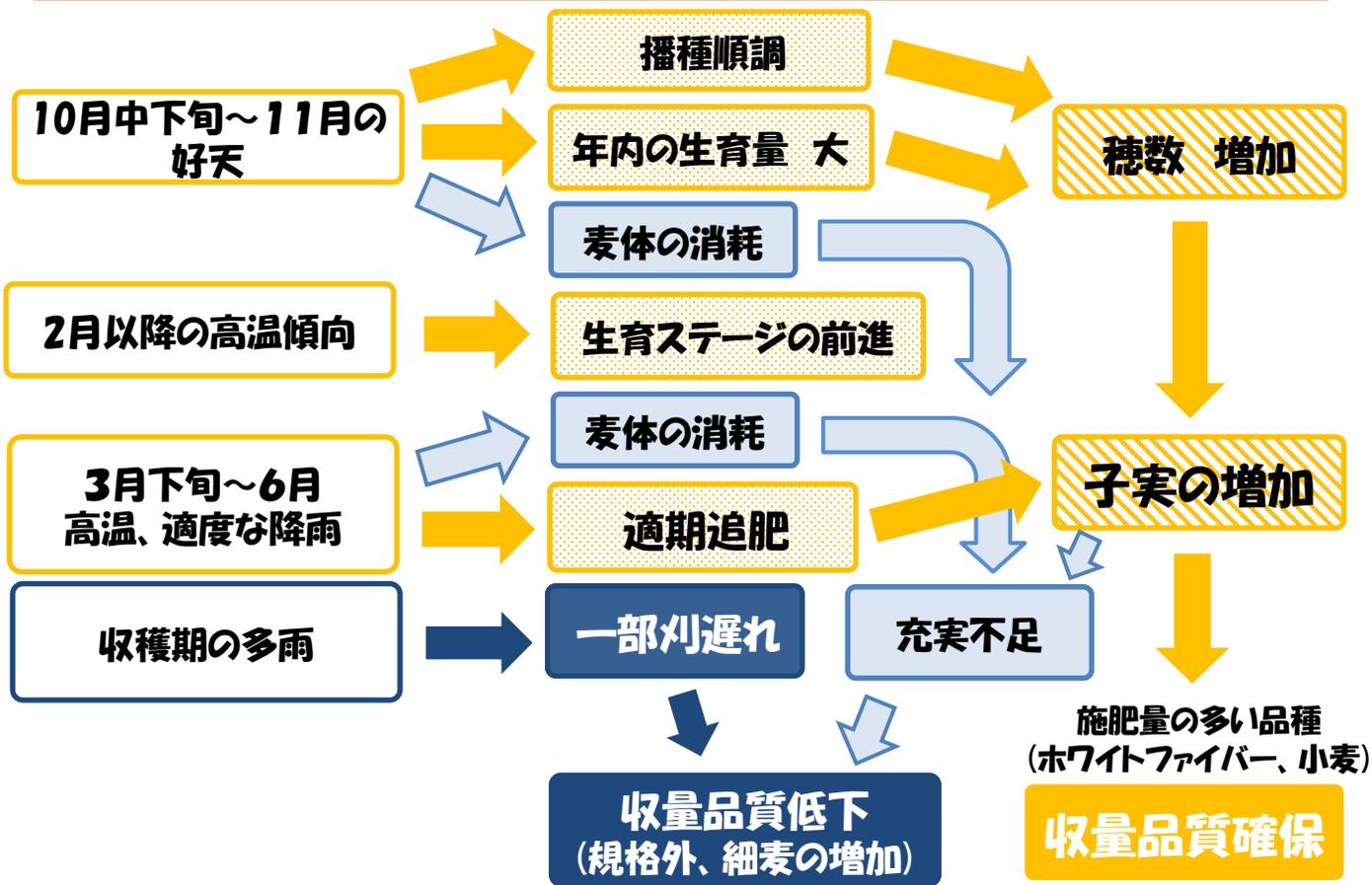


図9 令和5年播種(令和6年産)麦類の作柄解析

◆ 年度によって気象経過は異なりますが、麦類も他作物と同様に**基本技術の励行**が大切です！基本を確認し、適期作業に努めましょう。

# 令和6年産の課題： 麦体の消耗 → 充実不足・収量低下

## ○有機物施用と土づくり

- ◆ 畑地、あるいは水稲－麦－大豆などの畑作を含むローテーションが長年行われた土壌では、有機物の分解が水田に比べ急速に進み、地力は水田よりも早く消耗していきます。
- ◆ 土壌有機物が減少すると、地力低下や土壌物理性の悪化につながるため、毎年、堆肥等を投入して地力を維持していきましょう！
- ◆ 作業時間が確保できず、作付け前の堆肥散布が難しい場合は、ローテーションのなかで散布可能なタイミングを見つけて行いましょう！
  - ・ 牛ふん堆肥(窒素含有率1%程度) : 1t/10a以内
  - ・ 豚ふん堆肥(窒素含有率2%程度) : 500kg/10a以内

## ○生育に合わせた追肥

- ◆ ホワイトファイバー:β-グルカン含有率を維持するため、幼穂形成期に2.5kgN/10aを追肥し、減数分裂期には葉色(SPAD値)が41以上であれば2.5kgN/10a、41未満であれば5.0kgN/10aを追肥しましょう(普及に移す技術第96号)。葉色の測定は生育が平均的な株の主茎または主茎と同等に生育がすすんだ茎の展開第2葉で、20株以上の平均を目安にしてください。

- ◆ 令和7年産麦作情報から葉色値も掲載しますので、ご参考にしてください。

- ◆ 起生期～幼穂形成期の追肥量が、4.5kgN/10a以上になると、倒伏程度が高くなる傾向があるので、幼穂形成期までに過剰な施肥をしないようにしましょう。

追肥時期	幼穂形成期 (1回目)	減数分裂期 (2回目)
施用量	2.5kgN/10a	葉色41以上 2.5kgN/10a 葉色41未満 5.0kgN/10a

図9 「ホワイトファイバー」の追肥時期と施用量

## ○適期刈取：早刈り、刈遅れは品質低下を招きます

- ◆ 麦類の成熟期及び収穫適期の目安は下図のとおりです。
- ◆ **早刈り**は登熟不足や空洞麦発生による子実重、品質低下、**刈遅れ**は収穫ロス、発芽粒や退色粒の発生、雑菌の増殖、小麦のフォーリングナンバー低下の大きな原因となるので注意しましょう！



○解説  
刈遅れにより全体的に白化、退色が見られ、雑菌の繁殖や赤かび粒が発生している

- ・ 雑菌の繁殖
- ・ 赤かび粒

図10 適期刈取と品質(ミノリムギ)